千葉市新基本計画（原案）に対する意見【第2部会】（第1回及び第2回第2部会における意見）

資料2

No.	委員	意見	答申(案)たたき台への反映
1	黒岩委員	行政が全部やるのではなく、主役は市民であり、教育や生涯学習などで、高齢者やこどもなど市民の力を養成して伸ばしていかなければならない。行政は、その仕組みや場所を提供する役割である。「まちづくりの底力」の内容を、教育、高齢者やこどもの力の活用という観点から明確にした方がいい。	１（１）
2	高山委員	障害者についての認識がまだまだ不足していると感じているので、例えば30ページの「みんなの力で支えあうまち」の中の「こどもと高齢者などの多世代交流により…」というところに、障害者との交流に係る文言を加える等、検討してほしい。	２（７）ウ
3	海宝副部会長	市民は全人格的に存在しており、何か特定のことにとらわれて行動を起こすわけではないので、活動を連携するために、それをコーディネイトする機能を行政が担うことを明確に打ち出すべきである。	１（１）
4	鍋嶋委員	例えば、「2-1 健康で活力に満ちた社会を創る」や「2-3 ともに支えあう地域福祉社会を創る」の内容は、子育て支援や高齢者のことにも関連するものであるのに、それぞれの分野に関連することしか書かれていない。具体的な計画においても、分野ごとに細かく書いてあっても全体として分かりにくい計画になってしまうので、他の分野に横断的に関わる内容については、つながりが分かるように工夫して記載すべきである。	１（２）
5	鍋嶋委員	「2-2 こどもを産み、育てやすい環境を創る」では、現状と課題の内容に比べて、施策の展開について具体的な書き込みが少ないように感じる。特に、施策の展開において、具体的な施設名等が記載されているところとそうでないところのバラつきがあるように見え、本当は書くべきところに書かれていない。現状と課題に対応する具体的な施策をもう少し書きこんでほしい。	１（３）
6	松本委員	この計画で一番大事なのは「まちづくりの底力」だが、自分の今までの地域との関わり方を考えると期待できるか疑問である。実態を調査して、この底力にどれくらい期待できるかを線引きして書き込むことが必要ではないか。 また、基本計画には書きこまないとしたら、次の段階ではどのようにするのか。	１（１）
7	藤本委員	わかりやすく、人に優しい福祉、医療が必要である。特に、障害者の方については、自立支援ということが注目されていることから、その方々についても同様にわかりやすいまちづくりが必要である。	２（１）
8	古山委員	医薬品の適正使用について、全く言及がないので、どこかに加えていただきたい。	２（３）イ
9	藤本委員	「２－１」について、糖尿病と歯周病は非常に関係が深いので、生活習慣病とのところに歯周病という言葉を加え、「歯科的なアプローチ」「歯科的な健康」「歯と口の健康」などの文言を加えていただきたい。 また、「現状と課題」の上から3行目の「…市民が健康でいきいきと暮らせる…」と書かれているが、おいしく食べられることが健康のバロメーターなので、「…おいしく食べて元気に暮らせる…」の方が分かりやすいのではないか。	２（３）ア
10	大澤委員	特に産婦人科医等については、医師の高齢化、なり手不足など医師の確保が大きな課題であるので、「２－１－２」の1番目の項目中「…必要な医療を真に必要な人が受けられる医療体制づくり…」と書かれているが、ここに必要な医師の確保について加えてもいいのではないか。	２（３）エ
11	大澤委員	救急医療について、「４－１－３　消防・救急体制の充実」だけで触れられているところ、「２－１－２　医療体制の充実」にも加えてもいいのではないか。	２（３）カ（ア）
12	藤本委員	「２－１－２」の1番目の項目中、「かかりつけ医」のところに「かかりつけ歯科医」と加えてほしい。	２（３）カ（イ）
13	御園委員	「２－２」において、千葉市がどのようにこどもを育てていきたいのかという、子育てに関する理念を示すべきであり、それを実現するための施策の展開、とすべきである。 国の動きを見ると、子育てというものが今後大きく変わっていくと思われるが、変わってはいけない基本的理念というものがあると思う。地域主権改革が進む中、千葉市の考え方が今後重要になることから、こどもの最善の利益というもの、自ら主張できないこどもに代わって何が大事なのかということを示しておいた方がいい。	２（４）ア
14	大髙委員	家庭の教育力や介護能力の低下について。子育て不安や介護不安がこれほど社会問題化しているのは、世界的に見て日本だけであり、地域の中で家族が孤立し、母親の負担が大きいという点で非常に珍しい国である。したがって、現状と課題の表現について、「社会化している子育て不安」、「介護不安に対応して」等と記載するのが現実的である。	２（４）エ
15	上関委員	「２－２」の「現状と課題」中、「家庭の教育力の低下が指摘される…」とあるが、このように一般的な傾向として記載すると、教育に熱心に取り組んでいる家庭の方に対し不愉快な印象を与えるのではないか。「家庭の格差による教育力の低下」とすべきでないか。	２（４）エ

千葉市新基本計画（原案）に対する意見【第2部会】（第1回及び第2回第2部会における意見）

資料2

No.	委員	意見	答申(案)たたき台への反映
16	御園委員	事前提出意見で、「仕事と家庭生活の両立支援」について、「保育所等で働く女性の労働環境も問題にしなければ解決していかない」と書かれているが、ワーク・ライフ・バランスは、全ての働く人にとって課題であり、保育所職員に限らず、親、職員等全ての人にとって重要である。	2 （4） イ （イ）
17	大髙委員	「2－2－1 子育て支援の充実」や「2－2－2 こどもの健全育成の推進」において、子育て支援センター、子育てリラックス館などの具体的な施設名や「地域におけるこどもの居場所の確保」が書かれているが、福祉と教育は表裏一体なので、例えばここに公民館、図書館、美術館、科学館などの千葉市の充実した施設を加えてほしい。	2 （4） オ
18	上関委員	「2－2」について、施策の展開の内容が、自分が保育所を利用し始めた20年前のものとそれほど変わらない印象を受ける。これから10年間、何か新しく加えられることはないのか。	2 （4） カ （イ）
19	岩崎委員	子育て期の母親、特に専業主婦は、学習ニーズがとても高いにも関わらず、なかなか学習できない層であり、育児不安が大きい方が専業主婦に多いと言われるが、学習活動の支援などによりそれが軽減されることが明らかにされている。子育て不安を軽減するための子育て支援の中に、生涯学習センターの活用などを通じた、学習ニーズに応える学習支援という視点を加えてほしい。	2 （4） カ （オ）
20	御園委員	国で検討中の「子ども・子育て新システム」において、保育所、幼稚園及び認定こども園を「こども園」（仮称）に一体化する方針が示されており、25年度に施行されると聞いているので、市において、これを先取りした仕組みをつくり、計画に位置づけてほしい。	2 （4） カ （イ）
21	御園委員	「2－2－2」について、障害や病気のある子ども、社会的養護が必要な子ども、親が病気である子どもなども保育所等で預かっており、そのような人たちを含めて支援することにより、こどもの健全育成につながることが読み取れるようにすべき。	2 （4） キ （イ）
22	御園委員	児童福祉法でいうこどもは18歳未満であるので、2－2－2の2番目の項目中、「地域におけるこどもの居場所…」のところを、18歳未満のこどもを指すような記述にすべき。	2 （4） キ （ア）
23	黒岩委員	地域福祉に関しては、地域住民、NPO、ボランティア等についての地域同士のつながりとともに、公的機関の専門性が重要である。原案のP57～58で、それらの機関の専門性や地域との関わりをもっと明確にしないと、市民に全て任せてしまうような印象を与える。	2 （5） ア
24	黒岩委員	地域福祉に関しては、基本計画とは別に、地域福祉計画、社会福祉協議会の地域福祉活動計画の個別計画があるので、これらがどのように全体の中で位置づけられ、連携していくかを明確にすべきである。	2 （5） エ
25	岩崎委員	「2－3－1」の2番目の項目の文章について、生活困窮者がそのまま自殺者、というロジックに見えてしまうので、生活困窮者への対策と自殺対策の2つのセンテンスに分けて書くべきである。	1 （4）
26	大澤委員	この計画は、市民に分かりやすく、というのが前提であるにも関わらず、「2－3－1」の1番目の項目中「既存スペース」が何を指すのかが分かりづらいので、「空き教室」「空き店舗」などと例示すべき。また、「多様な主体」についても同様である。	1 （3）
27	海宝副部会長	「2－3－1」の1番目の項目中「既存スペース」という言葉の意味がはっきりつかめないので、具体的に例示してほしい。また、「多様な主体」と書かれているが、既存の組織なのか、NPOなど民間の活動を取り込んでいくのか、もう少し書いた方がいい。さらに、新たに地域を結び付けるような主体を行政が育成していく立場を明確にする必要がある。	1 （3） 2 （5） イ
28	黒岩委員	「地域福祉の充実」は3つに分けられるのではないか。1つ目が、高齢者、障害者をはじめ、刑務所からの出所者等、住民では担いきれない本当に地域で支援が必要な方への対策。2つ目が人づくり、支えあい、活動づくりなど、NPO、ボランティア、自治会、民生委員など、地域住民の福祉の担い手としての育成。3つ目として、行政などの専門職と地域住民との連携、という形にした方が分かりやすい。	2 （5） ウ
29	岩崎委員	高齢者に係る記述のトーンがネガティブであり、明るく積極的な表現で、活用する視点を持つことが重要である。理由は以下のとおり。 ○ こどもや若者には教育や訓練が必要だが、高齢者にはそれらの初期投資が不要 ○ 高齢期に至ると、通常は社会貢献をしたいという欲求が出てくることが明らかにされている。 ○ 脳の研究において、いわゆる知恵や英知というものについては、80歳くらいまで向上することが分かっている。若者の 素早い学習機能など異なる機能を持つ年代が組み合わさることにより、問題の解決が早くなる。	2 （6） ア

千葉市新基本計画（原案）に対する意見【第2部会】（第1回及び第2回第2部会における意見）

資料2

No.	委員	意見	答申(案)たたき台への反映
30	鍋嶋委員	「2－4－1」の2番目の項目中の記述について、高齢者がどのように明るく元気に暮らしていけるかが読み取れないので、単に現状と課題の記述内容を受けるのではなく、千葉市の想いを入れて膨らませれば明るい方向性が見える。	2 （6） ア
31	藤本委員	「2－4－1」の1番目の項目中「…要支援・要介護になることを可能な限り予防する…」と書かれているが、実際は介護や支援を必要としない方が非常に多い。「健康寿命を保持・増進する取組みをする」などプラスのイメージの文章にした方がいい。	2 （6） ア
32	伊藤委員	障害者でない人も含めてお互いの理解が足りないということは、市民ワークショップでも意見があり、明確でないという事前提出意見もあったが、段差をなくすというバリアフリーではなく、お互いがお互いを理解し合い、そのうえで助け合うという「心のバリアフリー」という言葉を大切に使っていこうと話し合われた。	2 （7） ア
33	大髙委員	障害のある方が教育にアクセスすることは余暇ではなく権利なので、2－5－3か方向性3のどちらかに、「障害のある無しに関わらず」等と文言を加えてほしい。そして、障害のある方を理解するための、障害のない方々と共生していくような活動を、教育と福祉がタッグを組んで行っていただきたい。	1 （4） 2 （7） イ
34	海宝副部会長	2－5－3の2番めの項目中「障害者のスポーツ大会の開催をはじめとする様々な交流活動…」と書かれているが、障害者を主体としたスポーツ大会、と書くと、限定した人しか関わらない可能性がある。市が行うさまざまな活動において、障害者の方と交流を図るという内容にした方が、より障害者でない方が関われることとなるので、そのうえで障害者への認識や共感を高める活動を進めてもいいのではないか。	2 （7） ウ
35	細谷委員	労働の場においては、男女がそのもてる力を発揮していかなければならないはずが、女性が「子を産む」という一点だけで、育児、家事、家族の介護を女性の仕事とされてきたし、労働の場でも同様の理由で男性の半分にも満たない待遇で働かせられてきた。そんな女性たちに、今、「男女共同参画社会の形成」をうたい、医療、介護などの大変な職場に駆り出す状況が作られつつあることから、もっと本質的なところから「男女共同参画社会」というものを見つめなおす必要があると思う。	3 （1）
36	黒岩委員	人がいかに市民性を持って地域のまちづくりに携わるかが大事かという感想である。「千葉らしさ」については、こどもを中心として、障害者、高齢者、地元の人たちと交流することで、時間はかかるが「千葉らしさ」につながるのではないか。	3 （2） ウ
37	高山委員	お年寄りや障害者にはいろいろな能力を持った方がおり、こどもたちとの彼らの交流から、こどもたちの温かい心を育てていきたいと思うので、お年寄りや障害者との交流について盛り込んでほしい。	3 （2） ウ
38	池谷部会長	学校教育については、少子化が進む中で育った世代である若い教師を育てていくことが必要だが、大学、現場などのほか、まちの人材が良き先輩として関わり、良い方向に導いていくことも必要である。経験豊富な先生でも精神的に苦しんでいると聞いており、教師を助けてあげることが良い教育活動につながるのではないか。	3 （2） ア
39	宇梶委員	医師会が取り組んでいる学校保健事業の取組みについて、「こどものからだや心の問題への取組み」という表現でもよいので記述してほしい。	3 （2） イ
40	大髙委員	生涯学習の中には文化に関する教育も非常に多く含まれている。市に美術館などの素晴らしい文化施設がある一方、p69のグラフでは「文化施設に行きたくなるようなプログラムの実施」「既存の公共施設を使いやすくすること」などが上位に来ており、このような課題に対する千葉市の対応を記述する必要がある。 また、別の意見にあったように、千葉市美術館の入館料を小中学生無料としている等の良い取組みがあまり知られていないので、たとえば「3－1」において具体的に記述すると、それらの取組みが目に見えて良いのではないか。	1 （3）
41	上関委員	「3－1」の「現状と課題」中の「家庭の教育力の低下」は、「家庭の格差による教育力の低下」に修正してほしい。	2 （4） エ
42	池谷部会長	多くの意見が出た「3－1」の「家庭の教育力の低下」について、これは一般化された言葉であり、決して各保護者を責める言葉ではない。核家族化などが進み、家族の構成人数が少なくなる中での、家族でのコミュニケーション量の物理的な減少、地域との関わりの希薄化などを広くとらえての家庭の機能の低下を懸念する声であり、働きながら子育てしている親や、家庭の中で孤独と戦っている親をどう支援していくかという意味合いで使われている思うので、その状況から10年後を見通した教育施策が必要である。	2 （4） エ
43	伊藤委員	「3－1」の「現状と課題」中に「家庭の教育力の低下」とあるが、前回も意見が出たが、やはり納得がいかない。それぞれの家庭で格差が生じている状況であり、一人の母親として、言葉が適切でないと強く感じた。	2 （4） エ
44	東委員	「3－1」の「施策の展開」について。たとえば商店街の店主のような、自分の生活動線上にいる人との交流により、将来のまちへの愛着や安心感が育まれていくと思うので、「地域の人を知る」という内容を加えてほしい。	3 （2） カ （ア）

千葉市新基本計画（原案）に対する意見【第2部会】（第1回及び第2回第2部会における意見）

資料2

No.	委員	意見	答申(案)たたき台への反映
45	伊藤委員	「3－1－1」において、いじめや不登校について触れられていない。中学校区単位の対応としてスクールカウンセラーが配置されているが、いじめ問題が低年齢化していることから、小学校にも相談窓口のようなものを設置するなど、積極的な取組みが必要である。	3 （2） カ （イ）
46	伊藤委員	3－1－1の4番目の項目中「…特別支援教育の質的向上を図ります。」と書かれているが、現状で十分との印象を与えるので、「…充実を図ります」に修正してほしい。	1 （4）
47	大髙委員	「3－1」の内容について、学校教育だけが対象となっており、幼稚園や保育所に関する視点が欠落している。	3 （2） オ
48	大髙委員	日本は、国連の「障害者の権利条約」の批准に向けた準備中であるが、障害者が一般の学校で学ぶ権利が大きな焦点になっているので、インクルーシブ教育の視点を入れる必要がある。	3 （2） カ （ウ）
49	上関委員	「3－1－1」について、文部科学省の施策とは違う、千葉市らしい具体的な施策を盛り込んでほしい。	3 （2） カ （エ）
50	黒岩委員	「3－1－1」の8番目の項目について。教育にとって、これからは地域全体の教育力の向上が大切である。子どものいない人や結婚していない人も含めて、地域の人達が関わって学校を運営する、学校支援地域本部やコミュニティ・スクールのような取組みや、地域の人たちが夜間に講座を開催するような取組みなどが、「開かれた学校」の具体的なイメージであり、「学校教育の振興」というタイトルよりもう少し広い意味の内容がふさわしい。	3 （2） カ （オ）
51	細谷委員	「教育の質の向上」を担う先生方には、充分に子供たちに気配りのできる時間的ゆとりを持ち、その任務にあたってもらいたい。	3 （2） ア
52	伊藤委員	「3－2－1」における「こども参画条例」は、その内容が不明なので、このまま記載することは難しいのではないか。	3 （2） キ
53	黒岩委員	「3－2－1」について、こどものまちづくりへの参画を達成するための施策として、すぐに条例の制定とするのではなく、まちづくりに取り組むための教育プログラムを構築することなどが重要であり、それがまちづくりの底力にもつながる。たとえば、アメリカでは、地域での課題解決のための取組みについて体験学習する「サービス・ラーニング」という手法がある。	3 （2） キ
54	鍋嶋委員	こども参画条例は、シンボライズされている印象がある。実体としての参画のスタイルを、区ごとの視点、中学校区ごとなどのエリアの視点、地域と言うことを想定した視点で書き込むことが必要であり、項目をもう一つつくるのが適切だと思う。	3 （2） キ
55	御園委員	こどもは保護を受けるだけではなく、無限の可能性や力を持っており、千葉市の未来を担う存在である。こどもの権利条約では意見表明権がうたわれており、こども参画条例には、千葉市としてすばらしいことになると思うので賛成であるし、10年先を見据えた時に必要である。	3 （2） キ
56	大髙委員	「3－2」について、生涯学習とスポーツは分けて書いた方がよいのではないか。 もし一つにまとめて書くならば、スポーツに比べて生涯学習に関する内容が抽象的なので、たとえば生涯学習講座のニーズの具体的な分析を行うなどにより、スポーツと同様に具体的に書いてほしい。	3 （3） ア
57	重村委員	「3－2」の「現状と課題」中、「…スポーツ・レクリエーションの活動基盤は概ね充足してきています。」と書かれているが、関係団体へのアンケートでは「スポーツをやろうとしても場所がない」という意見が非常に多く、この内容は正しくない。体育協会の関係団体ですら場所が不足しているのだから、その他の市民がスポーツをしようとしても無理だと思う。	3 （3） イ （イ）
58	重村委員	子育て世代や働き盛りは生活に余裕がなく、若者は趣味に夢中なので興味のある方しかスポーツをしないが、年配の方は健康のためにスポーツをする。スポーツ施設には地域で気軽にという条件設定ができていないので、年配の方も、ダンスや公演会のようにもっとスポーツに親しめる環境づくりが必要である。	3 （3） イ （ウ）
59	重村委員	「3－2」の「現状と課題」中、5番目の項目に「今後は、効果的な情報提供や民間施設の活用により、…」と書かれているが、施設の充足と話をすり替えている。民間施設はあっても、どうやって使わせてもらえるのか、情報提供ができるのか、市がシステム化するのか、使用する団体が既得権益化しないかなど、問題が多く現実的でない。	3 （3） イ （イ）
60	重村委員	スポーツ・レクリエーションの振興には指導者の養成が必要な旨を加えるべきである。	3 （3） イ （エ）

千葉市新基本計画（原案）に対する意見【第2部会】（第1回及び第2回第2部会における意見）

資料2

No.	委員	意見	答申(案)たたき台への反映
61	高山委員	今年の障害者スポーツ大会の団長としての経験から、市のスポーツ施設については、施設は充足しているが、使い勝手が悪いので、どう改善してもらえるのかが課題であると感じた。事例は以下のとおり。 ①千葉市の水泳プールは飛び込みができず、今回の強化練習でも許可されなかったので習志野市まで行かなければならなかった。 ②ポートアリーナの体育館は高額なクーラー代を取るので、今年の夏の猛暑にも関わらず、1時間ごとにしかクーラーをつけられなかったので、選手の体調管理が難しかった。 ③野球のグラウンドは2時間単位で貸し出しているが、障害者は、準備に1時間ほどかかるので、ほとんどグラウンドを使う時間がなかった。	３（３）イ（イ）
62	細谷委員	生涯学習やスポーツ活動へ参加する市民が多くない理由は、それだけの余裕さえ持ちえていない方が圧倒的に多いからである。生涯学習やスポーツを否定するわけではないが、「３－２」の「現状と課題」の3番目の項目中「市民の有する…地域社会で生きる仕組み」とは、少なくとも日々の衣食住が不安のない状況にある」ということである。	３（３）イ（ア）
63	細谷委員	生涯学習を受けた方々に対し、その後自費で育てた教養をボランティアで還元し、地域社会で生きる仕組みづくりを進めよというのでは、地方自治体の持つべき任務を完全に放棄していることにはなるのではないか。	３（３）ウ
64	上関委員	「３－２－２」の2項目目にプロスポーツチームとの連携について書かれているが、市が、民間企業であるチームと具体的にどのように関わっていくのかが見えて来ない。	３（３）エ（イ）
65	重村委員	アマチュアスポーツ、すなわち高校スポーツが盛んになることでスポーツ振興を図ることができる。施設、金銭面での問題などで非常に難しいが、全国規模のアマチュア大会誘致が、主要都市でのスポーツ振興に有効である。	３（３）エ（ア）
66	東委員	「３－３」の「現状と課題」について、芸術に関しては、「千葉らしさ」にあまり囚われて良くないものをつくるよりも、新しいものをつくっていく視点が重要である。	３（４）ア
67	古山委員	「３－３」の「現状と課題」について。「千葉らしさ」がどうしても思い浮かばないが、もともと何もないから見えないのかも知れないので、今後つくり上げていくことが必要ではないか。	３（４）ア
68	東委員	スポーツの振興に指導者の育成が必要との意見があったが、文化でも同じであり、この10年を担う活動家の支援が必要であることから、「３－３－１」中1番目の項目中「…地域の特性を生かした…」を「地域の特性や人材を生かした…」に修正してほしい。	３（４）イ（ア）
69	池谷部会長	「３－３」について、「千葉らしさ」を強調できるよう、催し物を工夫するなどして複数のものを線で結んでいけるようなアピールができれば、市民が見てみたい、活躍してみたいと思えるようになるのではないか。	３（４）イ（イ）
70	上関委員	市美術館について、決して大きい美術館ではないが、全国から人が見にくるような個性的な展示を行っているのに、市民がそれを知らないことがあるのでもったいないと思う。市民にもっと知ってほしい。	３（４）イ（ウ）
71	黒岩委員	市美術館について、全国にファンが多い芸術家の展示を行っているにも関わらず、あまり積極的に宣伝しておらず、不親切な印象があるとともに残念である。市民に対しても、市民でない方に対しても「文化を守り、はぐくむ」ことをしてほしい。	３（４）イ（ウ）
72	海宝副部会長	「３－５」について、方向性3に入れるべきなのか、ずっと気になっている。この内容は、基本構想の「共に築いていくまち・千葉市」に対応した方向性であり、方向性6があってもよいのではないかと思う。	３（５）ア
73	黒岩委員	千葉市は大学が多いにも関わらず、高校生、大学生などの青少年の視点が抜けている。千葉大生などがすでに地域活動に取り組んでいるが、学校側も、地域と一緒に活動することで学生を成長させてほしいと思っており、学生が成長すればその分地域に還元もできるので、ぜひ活用してほしい。	３（５）イ
74	細谷委員	「３－５」について。「公共活動」という言葉については、第2章の2でも、行政がその本来持つ役割を放棄するかのように説明されているが、ここでも同様に「元気な高齢者の活動」や「市民による主体的な活動」と書かれていると、一体行政は何をやるのかと問わざるを得ない。 また、ここで「男女共同参画社会の形成に向けた取り組み」と書かれても、きつい言い方をすれば、「なるべく金のかからないまちづくりの土台に女性の力を十二分に発揮してもらいましょう」と聞こえる。	３（５）ウ ３（１）
75	東委員	「３－５－１」の3項目目に「区役所を区民との協働拠点とする」と書かれているが、活動のイメージをつかみやすくするため、たとえば小学校や公民館、ショッピングセンターのように、生活に密着した親しみやすい場所であるより小さな拠点について記述してはどうか。	３（５）エ（ア）

千葉市新基本計画（原案）に対する意見【第2部会】（第1回及び第2回第2部会における意見）

資料2

No.	委員	意見	答申(案)たたき台への反映
76	東委員	「3－5－1」の2項目目に「わかりやすい情報提供」と書かれているが、情報がNPOに関心がある人にしか届かない。アンテナを張っていない市民に情報を届けることが大事なので、他の施設や他の会社などと連携した情報提供を、区役所よりも身近な場所で行えるとよい。	3（5）オ（イ）
77	伊藤委員	アンテナを張っていない市民に情報が届かないという意見は、市民ワークショップでも出ており、自分の経験からも見直すべき点があると感じる。たとえば、市のホームページにその月の市のイベントの一覧を載せるなど、横断的な情報提供をすれば、市民の関心も高くなり、人が集まりやすくなるのではないか。	3（5）オ（イ）
78	海宝副部会長	「協働拠点」とは、その場を利用、活用するという意味合いではないと思う。実際に活動に使うのは公民館などの身近な施設であり、区役所は、自治会、NPOなど、協働するいろいろな主体のマッチングを行う拠点なので、たとえば、「コーディネイト拠点」「調整拠点」といった表現にすれば、誤解がなくなるのではないか。	3（5）エ（イ）
79	黒岩委員	「3－5－1」の2番目の項目について。NPO、ボランティア、地域、町内会などでいろいろな活動が行われているが、なかなかお互いがつながらないのが問題である。「ネットワーク化を支援」と書かれているが、実際に顔を合わせることが大事なので、行政が声を掛けて顔合わせの場を作るなど、もう少し具体的に書いてほしい。	3（5）オ（ウ）
80	鍋嶋委員	今年度、区役所における民間などとの協働事業を予算化して実施しているが、その補助事業を継続して定着させるためには、たとえば佐倉市における「まちづくり協議会」などのような組織をつくっていかなければならないと思うので、そのような内容の記述を加えるべきではないか。	3（5）オ（エ）
81	松本委員	熱心でない市民をどうやって協働の場に出てきてもらうかについて、論点は以下の3つだと思う。 ①多くの人は、日々の生活の中で、地域と生活の関係性について考えていないので、文化、スポーツ、障害者や高齢者の方との交流など、入口としていろいろな交流のしかけを作ることが重要。 ②拠点として区役所には期待しているが、中身が問題である。どこでどういう力が必要なのか、懇切丁寧に情報提供していただければ活動する大切さがわかる。また、情報発信・共有の仕組み、市民からの提案を受け入れる仕組み、協働の効果をPDCAで改善していく仕組みが必要である。 ③こどもの教育について、こどもの参画が重要なので、時間はかかるが確実に効果が出るので、必ず子どもがまちづくりに触れあう機会を持つことができないか。また、空き教室で、学校のOB・OGがまちづくりについて考える場ができたらよいと思う。	3（5）オ（ア） 3（5）エ（イ） 3（5）オ（オ）

千葉市新基本計画（原案）に対する意見【第2部会】（第1回及び第2回第2部会における意見）

資料2

No.	委員	意見	答申(案)たたき台への反映
①	細谷委員	事前提出意見において、親が自分を産み、育て、そして自分が働き、結婚しこどもを育てて今に至るまで、経済的土台が常にあったと認識しており、「まちづくりの方向性」についての意見を出させていただいた。総論部会ではこのことについて議論があったのか、なかったのか。	記載しない（質問）
②	長島委員	民生委員は、目立たないが、地域の方からいろいろな相談を受けて活動しており、特に、高齢者については虐待が多いので、いちはやく民生委員が把握しなければならないということを、各地区の民生委員に会議のたびに伝えている。	記載しない（事例紹介）
③	伊藤委員	障害者の方との共生を推進する具体的な活動についても、ワークショップの中で多く出しているので、基本計画を踏まえた具体的な施策の中で、実現できるものは確実に進めて行っていただきたい。	記載しない（実施計画等への要望）
④	上関委員	「3－1－1」の5番目の項目に学校適正配置について書かれているが、現在行われている真砂地区での学校の統廃合の取組みについても賛否両論があるので、関係者の意見を聞いて進めてほしい。	記載しない（事業の進め方に関する意見）
⑤	上関委員	「3－1－1」の5番目の項目中、「公平な教育環境」と書かれているが、新しい学校の方がやはり設備が充実していることから、財政が厳しい状況ではあるが、校舎の建て替えや耐震化などを進めてほしい。加えて、難しいかもしれないが、具体的な基準があればいいと思う。	記載しない（事業の進め方に関する意見）
⑥	鍋嶋委員	「3－5－1」で、区民の協働拠点としての区役所の役割強化が書かれているが、学校の統廃合による跡地利用について、高齢者もこどももみんなが集える場所地域コミュニティの場にする視点を入れてはどうか。特に、美浜区は高齢者施設が少ないので、そのように活用できればと思う。	記載しない（事業の進め方に関する意見）
⑦	古山委員	真砂地区の学校統廃合の対象である学校で長い間学校薬剤師を務めているので、今回の統廃合は非常に寂しいし、何よりつらい思いをするのは子どもたちである。学校は広大な面積があるので、広域避難場所以外にも活用してほしい。	記載しない（感想）
⑧	細谷委員	今までの「大人数教育」の弊害があり、少人数であるからこそ出来る教育を望んできたのであるから、「3－1－1」の5番目の項目において、児童生徒数の減少を「公平でない教育環境」であるとして「小中学校の統合等」が当然であるとする記述には納得できない。	記載しない（感想）
⑨	大髙委員	「こども参画条例」の内容がよく分からない。	記載しない（感想）
⑩	重村委員	「3－2」の「現状と課題」の6番目の項目に「…この二つのチームを中心とした、…市民のスポーツ活動の交流を図ることが重要です。」と書かれているが、競技やスポーツ施設に係る市の所管がバラバラであり総合窓口がないので、スポーツ・レクリエーションの相談窓口をつくるべきである。	記載しない（具体的取組みに関する意見）
⑪	重村委員	「3－4－1」の1番目の項目について。25年にわたる天津市との卓球などを通じた交流の結果、千葉市のスポーツ界との交流は中国に評価されており、さらにそれを進めたいが、市の財政難から補助金が出なくなり、途絶えてしまった取組みがある。スポーツ団体は現在社会体育課が所管だが、全市的に今後のスポーツをどうするかを考え、公園管理課などを含めて、窓口を一本化すべきである。	記載しない（具体的取組みに関する意見）
⑫	高山委員	サッカースタジアムについて、市原臨海競技場では、車いすの方を1階に招待してくれるが、蘇我球技場（フクダ電子アリーナ）は2階なので、選手との交流が全くできない。施設をつくる際は、他の施設のいいところを取り入れてほしい。	記載しない（具体的取組みに関する意見）
⑬	高山委員	障害者や高齢者が安心してまちを歩けるために、土木事務所を中心として、高齢者や障害者に加え、警察、消防、地域の人たちと一緒にまちの点検を行っているが、もう少し頻繁に行うと、さらに交流が生まれるのではないか。	記載しない（事例紹介）
⑭	松本委員	協働の母体や協働をマネジメントする場所を区民の協働拠点とすることの役割は非常に重要なので、区役所の役割の強化に大きく期待したい。	記載しない（感想）
⑮	御園委員	地域子育て支援センターを運営している中で、子育て情報が氾濫していることから親が混乱しており、情報を整理して発信することが重要だと気付いた。	記載しない（感想）
⑯	古山委員	女性委員の全般にわたるきめ細かな意見には目が覚める思いがした。自分の団体も男性社会で、この審議会の事務局の職員もほとんど男性であることから、「男女共同参画社会の推進」が最優先事項ではないかと感じた。	記載しない（感想）